

令和6年度 「保育基礎」 年間指導計画

検 印	校 長	教 頭

科目名:保育基礎	対象学年:3年(普通選択)	単位数:3単位	授業時数:105時間
教科書	保育基礎(教育図書)		
副読本	保育基礎ワークノート(教育図書)		
担当者			
ねらい	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

知識・技能	・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。
思考・判断・表現	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。

○進捗予定表「発達と保育」（3 学年選択） 【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【主】主体的に学習に取り組む態度

月	時間	学習内容	学習のねらい	知	思	主
4	2	子どもに関わる職業を知ろう	・子どもにかかわる職業について関心を持ち、情報を収集・整理しようとしている。			○
5	10	第1章 子どもの保育 ① 保育の意義 ② 保育の環境 ③ 保育の方法	① 保育の意義と方法，保育の環境の特徴と役割について理解する。 ② 子供の心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。	○	○	
6	20	第2章 子どもの発達 ① 子どもの発達の特性 ② 乳幼児の発育と発達	③ 子供の保育の方法や保育の環境について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む。 ① 生涯発達における乳幼児期について，基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子供の姿を通して理解する。	○		○
7	43	第3章 子どもの生活 ① 子どもの健康と生活 ② 子どもの食事 ◆調理実習 ③ 子どもの衣服と寝具 ◆被服実習 ④ 子どもの健康と安全	② 乳幼児期の子供の健全な心身の発達について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。 ③ 子供の発達について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組むこと ① 子供の生活と養護について理解し，適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身に付ける。	○	○	○
9			② 子供の生活と適切な養護について，課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。		○	
10			③ 子供の生活と養護について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組むこと			○
11	10	第4章 子どもの福祉 ① 保育にみる児童観 ② 児童福祉の理念と法規・制度	① 児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解する。 ② 子供の福祉を支える場の役割について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。	○	○	
			③ 子供の福祉について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組むこと			○
12	20	第5章 こどもの文化 ① 子どもの文化の意義 ② 子どもの文化を支える場 ③ 子どもと遊び ④ 子どもの表現活動	① 子供の文化，遊びと表現活動について理解し，関連する技術を身に付ける。 ② 子供の健やかな発達を促す遊びや表現活動について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫する。	○	○	
1			③ 子供の文化について自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む。			○
2						

合計 105 時間

令和6年度 「食文化」 年間指導計画

検 印	校 長	教 頭

科目名：食文化	対象学年：3年（普通選）	単位数：2単位	授業時数：70時間
教科書	なし		
副教材	なし		
担当者			
ねらい	食と食文化の多様性を理解し、異なる食文化に対して寛容で受容的な姿勢を有するとともに、食文化を伝承し新たな食文化の創造を目指して主体的に学び、食育を推進することができる資質・能力を育む。		

評価の観点

知識・技能	食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【年間指導計画】 【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【主】主体的に学習に取り組む態度

月	時間	学習内容	学習のねらい	知	思	主
4	8	(1) 食文化の成り立ち 食文化の成り立ち 新しい食文化の創造 世界の食事情 食文化を取り巻く課題	① 日本や諸外国の食文化について、成り立ちの要因を理解する ② 食文化と気候や風土、宗教、風俗、習慣との関わりや食文化を取り巻く現状と課題について課題を発見し、その解決に向けて考察する ③ 食文化の成り立ちについて自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む	○	○	○
5	12	(2) 日本の食文化 食生活の変遷 日常食、行事食、 郷土料理 料理様式の発展 【調理実習5回】	① 日本の食文化について、その変遷や料理様式などを理解し、関連する技術を身に付ける ② 日本の食文化について課題を発見し、その解決に向けて考察し、表現する ③ 日本の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組むこと。	○	○	○
6						
7						

9 10 11 12 1 2	28	(3) 世界の食文化 世界の料理の特徴と文化 食生活のグローバル化 【発表】 【調理実習3回】	① 世界の食文化について、主な食文化圏とその料理の特徴や食のグローバル化による食生活の変容について理解し、関連する技術を身に付ける。 ② 歴史と食文化圏の関わりやグローバル化の進展に伴う料理や食文化の変化について課題を発見し、その解決に向けて考察する。 ③ 世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む。	○		
	12	(4) 食文化の伝承と創造 【調理実習2回】	① 食文化の伝承の重要性を踏まえ、新たな食文化を創造することの意義について理解し、関連する技術を身に付ける。 ② 日本や世界の食文化の伝承に関する課題を発見し、その解決に向けて工夫し、表現する。 ③ 新たな食文化の創造について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む	○		○
	10	(5) 食文化と食育 【食育カルタ】	① 食文化の発展のために食育が果たす役割について理解し、関連する情報を収集・整理する。 ② 食文化の発展に関する課題を発見し、その解決に向けてどのような食育を推進する活動が実践できるかを考察し、工夫する。 ③ 食文化の面から食育の推進のための活動について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○

70 時間

令和6年度 「家庭生活探究」 年間指導計画

検 印	校 長	教 頭

【科目】家庭生活探究	【単位数】2	【授業時数】70	【学年】3年理数科選択
【使用教科書】	なし		
【副教材】	なし		
【担当者】			
【学習の達成目標】			
生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な探究活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

【年間指導計画】 【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【主】主体的に学習に取り組む態度

月	時間	学習内容	学習のねらい	知	思	主
4	5	今年度の学習計画	◆今年度の家庭科を学ぶにあたって、学習の意義、内容、方法、評価について理解する。			
		(1)生活を振り返る	・自分の家庭生活を振り返り、課題を見出す。		○	○
		(2)題目の選択	・家庭生活の課題の中から、題目を決定する	○	○	
5	8	(3)実施計画をたてる	・課題を解決するためにいろいろな方向から解決方法を考え、計画をたてる。		○	
		①実態調査	・実態調査を行い、直面している課題と向き合う	○	○	○
		②資料収集	・必要な資料を収集する	○	○	○
6	8	(4)実践活動	・実施計画を基に実践していく		○	○
		(5)中間発表	・現段階までに進んだことを発表する		○	
7	6	(6)実践活動の見直し	・他の人からのアドバイスをもらいながら、現在実践している方法でよいのか見直しを行う		○	
9	8	(7)実践活動	・見直した方法を実践していく		○	○

10	7	(8)発表会の準備	・発表に向けての準備を行う		○	
		(9)発表・反省・評価	・今までの取り組みの成果を発表する		○	
		(1)生活を振り返る	・自分の家庭生活を振り返り、課題を見出す。		○	○
			※課題を継続してもよい			
11	8	(2)題目の選択	・いくつかの課題の中から、題目を決定する		○	○
		(3)実施計画をたてる	・課題を解決するためにいろいろな方向から解決方法を考え、計画をたてる。	○	○	
		①実態調査	・実態調査を行い、直面している課題と向き合う	○	○	○
		②資料収集	・必要な資料を収集する	○	○	
12	7	(4)実践活動	・実施計画を基に実践していく		○	
		(5)中間発表	・現段階までに進んだことを発表する		○	
		(6)実践活動の見直し	・他の人からのアドバイスをもらいながら、現在実践している方法でよいのか見直しを行う		○	
1	9	(7)実践活動	・見直した方法を実践していく	○	○	
		(8)発表会の準備	・発表に向けての準備を行う	○	○	
2	4	(9)発表・反省・評価	・今までの取り組みの成果を発表する		○	
		一年間の反省	・一年間の取り組みを振り返る		○	○

合計 70 時間

令和6年度 家庭科「家庭総合」年間指導計画

検 印	校 長	教 頭

科目名:家庭総合	対象学年:1年(普通科)	単位数:2単位	授業時数:70時間
教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍 家総70I)		
副読本	準拠ノート(東京書籍 家総70I) 生活ハンドブック(第一学習社)		
担当者			
ねらい	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。		

評価の観点(科目)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

学期	単元名・項目名	時配 数 当	学習のめあて	課題・提出物等	評価の観点		
					知	思	態
一 学 期	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	1	・家庭科の学習について知る ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義について理解する。	・振り返りフォーム			○
	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する	2	・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○	○	○
	2 目標を持って生きる		・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。		○	○	
	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる	3	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるようにする。 ・さまざまな生き方について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○		○
	2 家族・家庭を見つめる	3	・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。		○	○	
	3 これからの家庭生活と社会	3	・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。		○	○	
	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む	4	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○		○
	2 子どもの育つ力を知る	4	・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。		○		
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	2	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。	・ホームプロジェクト	○	○	○

2 学期	HP 発表	2	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。				
	3 子どもと関わる	4	・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーラム	○		
	4 子どもとの触れ合いから学ぶ	3	・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方について理解する。	・ワークシート ・妊娠体験 ・実習(児童文化財)	○	○	
	5 これからの保育環境	3	・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。		○	○	
	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える	2	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーラム	○	○	
	2 被服を入手する	4	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	・ワークシート ・被服実習(手縫い、ミシン縫い)	○		○
	3 被服を管理する	2	・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。		○		
	4 被服を作る	10	・これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。		○		
	5 衣生活の文化と知恵	1	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。		○	○	○
	6 これからの衣生活	3	・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。		○	○	
3 学期	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来	2	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーラム	○		
	2 高齢期の心身の特徴	3	・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。	・ワークシート ・シニア体験	○		○
	3 高齢者の自立を支える	2	・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。		○	○	
	4 これからの超高齢社会	2	・これからの超高齢社会の課題を理解する。 ・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。		○	○	
	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉	1	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーラム	○	○	
	2 社会保障の考え方	2	・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。	・ワークシート	○		○
	3 共に生きる	2	・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。		○	○	

令和6年度 家庭科「家庭基礎」年間指導計画

検 印	校 長	教 頭

科目名：家庭基礎	対象学年：2年（理数科）	単位数：2単位	授業時数：70時間
教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍 家総701）		
副読本	準拠ノート（東京書籍 家総701） 生活ハンドブック（第一学習社）		
担当者			
ねらい	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。		

評価の観点（科目）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

学期	単元名・項目名	配当 時数	学習のめあて		評価の観点		
				課題・提出物等	知	思	態
一 学 期	家庭科の学び方	1	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。	・振り返りフォーム	○	○	○
	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する	1	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	・定期考査 ・学習ノート	○	○	○
	2 目標を持って生きる	1	・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	・振り返りフォーム	○	○	
	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる	2	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	・ワークシート	○		○
	2 家族・家庭を見つめる	2	・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。		○	○	
	3 これからの家庭生活と社会	1	・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。		○	○	
	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む	1	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。	・定期考査 ・学習ノート	○		○

	2 子どもの育つ力を知る	2	・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	・振り返りフォーム ・ワークシート	○		
	3 子どもと関わる	2	・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。	・実習（児童文化財の製作）	○	○	
	4 子どもとの触れ合いから学ぶ	2	・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。		○		
	5 これからの保育環境	2	・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。		○	○	
	・生活に生かそう ・各章末「ホームプロジェクト」	1	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。		○	○	○
2 学期	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える	2	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム	○	○	
	2 被服を入手する	2	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	・ワークシート ・実習（手縫い。ミシン縫い）	○		
	3 被服を管理する 【被服実習】	3	・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。		○		○
	4 衣生活の文化と知恵	1	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。			○	
	5 これからの衣生活	2	・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。		○	○	
	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来	1	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム	○		
	2 高齢者の心身の特徴	2	・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。	・ワークシート ・シニア体験	○		○
	3 これからの超高齢社会	2	・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。		○	○	
	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉	1	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム	○		
	2 社会保障の考え方	1	・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。	・ワークシート	○		○
	3 共に生きる	1	・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。			○	
	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える	1	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォー	○		○

3 学 期	2 食事と栄養・食品	4	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。	ム ・ワークシート ・調理実習(2回)			
	3 食生活の選択と安全	2	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。				
	4 生涯の健康を見通した食事計画	2	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。				
	5 調理の基礎	5	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。				
	6 食生活の文化と知恵	1	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。				
	7 これからの食生活	2	・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。				
	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能	2	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート			○
	2 安全で快適な住生活の計画	1.5	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。				
	3 住生活の文化と知恵	0.5	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。				
	4 これからの住生活	1	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。				
	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定	1	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート			○
	2 購入・支払いのルールと方法	2	・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。				
	3 消費者の権利と責任	1	・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。				
	4 生涯の経済生活を見通す	3	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。				
	5 これからの経済生活	1	・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。				
	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	2	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォー			○

	第Ⅱ章 これからの生活を創造する Ⅰ生活をデザインする	Ⅰ	・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。	ム ・ワークシート		○	○	○
--	--------------------------------	---	---	--------------	--	---	---	---

令和6年度 家庭科「家庭総合」年間指導計画

検 印	校 長	教 頭

科目名:家庭総合	対象学年:2年(普通科)	単位数:2単位	授業時数:70時間
教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍 家総701)		
副読本	準拠ノート(東京書籍 家総701) 家庭科55デジタル+(教育図書)		
担当者			
ねらい	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。		

評価の観点(科目)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

学期	単元名・項目名	配当 時数	学習のめあて	課題・提出物等	評価の観点		
					知	思	態
Ⅰ 学期	家庭科の学び方	—	・家庭科の学習について知る				○
	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定	2	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○	○	○
	2 購入・支払いのルールと方法	3	・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。		○		
	3 消費者の権利と責任	2	・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。		○	○	
	4 生涯の経済生活を見通す	2	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。		○	○	
	5 家計をマネジメントする	5	・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。		○		
	6 これからの経済生活	1	・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。		○	○	

			・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。				
	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	5	・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○		○
	2 一人一人の力で社会を動かす	1	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。		○	○	
2 学 期	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える	3	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○	○	
	2 食事と栄養・食品	9	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。	・調理実習(4回)	○		
	3 食品の選択と安全	3	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。		○		
	4 生涯の健康を見通した食事計画	4	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。		○	○	○
	5 調理の基礎	8	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。		○		
	6 食生活の文化と知恵	2	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。		○	○	
	7 これからの食生活	3	・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。		○	○	
3 学 期	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能	4	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	・定期考査 ・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○	○	
	2 安全で快適な住生活の計画	4	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。		○	○	○
	3 住生活の文化と知恵	2	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。		○	○	
	4 これからの住生活	2	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。		○	○	
	第11章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする	4	・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。	・学習ノート ・振り返りフォーム ・ワークシート	○	○	○